

2024年04月

中医学の「蔵象学説」及び臨床応用

上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

一、「蔵象」の字義

(一) 一般的字義

蔵 — 隠して表に現さない。

象 — 目に見えるすがた。

(二) 中医学の字義

「蔵」は、体内に隠して目に見えない臓腑気血を指す。

臓にも通用する。

「象」は、形象、現象の意味である。

体の表に現す生理機能或いは病理現象のこと。

二、「蔵象学説」について

(一) 蔵象学説とは

- 中医学体系を構成する核心理論
- 人体身体構造及び生理機能、病理変化を認識する思惟方法
- 中医臨床における診察弁証と処方治療を指導する応用原則

(二) 蔵象学説の本源

- 古代の解剖知識
- 生活と臨床の経験帰納
- 伝統哲学思想

(三) 蔵象学説の特徴

- 五臓を中心とする中医学整体観念の体現。
- 「象」の角度から「蔵」の機能変動を観察する。
- 解剖構造、生理機能、病理表現三方面を結合する。
- 臨床の弁証論治と密接的に連結する。

(四) 蔵象学説の内容

蔵	象
五臓	体象(体・華・官・液 等)
六腑	神象(神・志)
奇恒之腑	脈象
気・血・精・津・液	声象(声・音)
	味象
	色象
	時象(季節・時辰)
	位象

三、藏象学説の臨床応用

(一) 疾病の診察の方面

	象	藏
望診	体象(体・華・官・液 等) 神象(神・志) 色象(五色・艶)	五臓 六腑 奇恒之腑 気・血・精・津・液
聞診	声象(声・音) 気味(膻・焦・香・腥・腐)	
問診	味象(辛・苦・甘・酸・鹹) 体象(体・華・官・液 等)	
切診	脈象 体象(体・官 等)	

(二) 疾病の治療の方面

1. 弁証論治

症 (病理の象) ⇒ 証 ⇒ 治法 (治療方針) ⇒ 処方 ⇒ 治療

2. 急則治其標、緩則治其本

標 ⇒ 表、症 (病理の象) 本 ⇒ 臟腑気血